

# 特養ホーム増設／市民が楽しめるスポーツ施設増設 市民の暮らし第一の市政実現へ一般質問

9日、日本共産党市議団は、佐藤よう子議員、佐々木とも子議員が一般質問に立ちました。その要旨を紹介します。

## ヒアリンググループ設置を 「新庁舎議場、緑の交流館に設置」

市議会議員  
佐藤よう子



佐藤よう子市議は、「障がいがあっても不自由なく暮らせる町田を求めて」、色覚障がいのある人に対して、市がおこなっている配慮について質問。「広報・ホームページでは一定の基準を設けてわかりやすいように努めている」と答弁がありました。防災マップなどへの配慮はなく改善を求めました。また、過去に二度質問してきた公共施設へのヒアリンググループ（磁器グループ）の設置を求めた質問には、「新庁舎の市議会傍聴席、鶴川緑の交流館に設置する。市民ホールなどには、福祉のまちづくり計画のなかで検討していく」と答弁がありました。



## 公共施設のトイレを 和式から洋式に

高齢社会を迎え、市内公共施設のトイレを調べてみると和式トイレの割合が高いことがわかりました。新庁舎、鶴川緑の交流館はほとんどが洋式トイレです。今後は、「順次洋式トイレ

に改修していく」との答弁でした。トイレの音声案内についても設置を求めました。



## 学校開放やスポーツ広場の 有料化はやめよ

市議会議員  
佐々木とも子



佐々木とも子市議は、「新5カ年計画」にあるスポーツ環境の整備とはなにか質しました。文化スポーツ振興部長は、ホームタウンチーム等のトップアスリートを身近に見ることができ、環境の整備を第一に上げ、市民がやるスポーツには、既存施設を有効活用するところをえしました。またスポーツ広場や学校開放は、環境整備を進める上で利用者への受益者負担が不可欠としました。



## 身近なスポーツ施設の 整備を急ぐべき

「学校が廃校で使えない木曾山崎地域にこそスポーツ施設の整備を」と求めると、震災の影響で利用が中止されている旧忠生6小の体育館を、改めて耐震診断をした上で、安全が確認されれば暫定利用を再開するとの答弁がありました。

最後に、現在検討中の「町田市の資源循環型施設整備基本計画」について質問。大型生ごみ処理機の今後のあり方、施設計画、資源ごみ、処理施設について質しました。

## 資源循環型施設は 幅広い市民の意見反映を

最後に、現在検討中の「町田市の資源循環型施設整備基本計画」について質問。大型生ごみ処理機の今後のあり方、施設計画、資源ごみ、処理施設について質しました。

## 特養ホーム増設 介護サービス低下やめよ

2012年4月より、介護保険第5次改定がおこなわれます。介護保険料の大幅な値上げ（基準額で4920円）、軽度要介護者からのサービスの取り上げ、生活支援サービスの時間短縮など、高齢者にとって大変な改悪となりますが、特養ホーム増設やサービス低下を招かないようにと求めました。

## 介護タクシーなど福祉有償運送に 利用助成券を

また、障がい者の外出支援で運行しているやまゆり号や、介護タクシーなどの福祉有償運送への利用助成券の創設を求めた質問には、町田市単独の「心身障がい者通院交通費助成制度」があるので、タクシー券は考えていないとの答弁でした。

## 太陽光発電の 初期投資を軽減する仕組みを

新年度予算では、日本共産党市議団が求めてきた、太陽光発電をはじめ太陽熱利用機器の補助対象が拡大しました。



再生可能エネルギーの普及に向けて飯田市の「おひさまゼロ円システム」など、太陽光発電の初期投資費用の軽減策を求め質問。「飯田市に視察に行った。先進市のとりくみを参考にしたい」と町田市にあった仕組みを研究していく」と環境資源部長が答えました。

